



2025年度 活動報告（案）

樹木・環境 ネットワーク協会

もくじ

P3. トピックス

P10. 事業別報告

P22. 会員

P23. 役員・職員

P25. 財務報告

2025年度、当協会は創立30周年を迎えることができました。そして、9月に一つの区切りとして、30周年の記念イベントを開催いたしました。これまでの歩みが、数えきれないほどの多くの方々の思いに支えられてきたこと、これからの10年、20年への歩みに向けての一步一步の重みを改めて感じた時間でした。

海の森公園オープンはじめ、ここ数年の新しい事業や動きも軌道に乗りはじめましたが、一方で、残されている課題も見えてきて、それにも取り組み始めています。

当協会の目指すところは30年を経ても変わらないと考えています。これからも多くの方々との関わりのなかで私たちの役割を果たしていけるよう努めていきます。

ミッション

人と自然が調和する 持続可能な社会をめざして

人の暮らしと自然の豊かさを保つことを両立し「持続可能な社会」を実現するためには、より多くの人々が自然とふれあい、自然について学び、自然の美しさや重要性を実感することが必要です。私たちはそんな思いを共有する人々に支えられて、活動を展開してきました。人々の思いを集め、森や里山、そして社会へ届けるために集う場所であり続けたい。樹木・環境ネットワーク協会の「聚（しゅう、『集』の旧字体）」という愛称には、そんな思いが込められています。



活動目的

森づくりや里山再生、人材育成、普及啓発活動などを実践しながら、「人と自然が調和する持続可能な社会」を目指す。





TOPICS **1** 30周年記念イベント

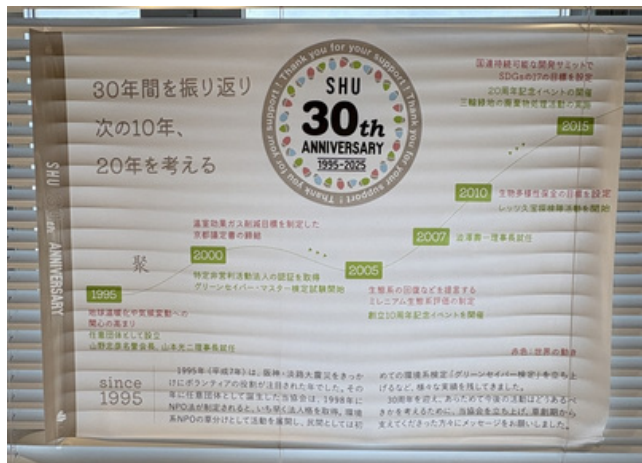
TOPICS **2** 海の森公園オープン1年

TOPICS **3** フィールドリーダー会議

TOPICS **4** 関西での継続的なCSR活動

TOPICS **5** まちだみどり活用ネットワーク NPO法人化へ





TOPICS | 30周年記念イベント

2025年9月20日（土）、樹木・環境ネットワーク協会の創立30周年記念イベントを海の森公園にて開催しました。海の森公園は20周年を迎えた場でもあり、またグランドオープンの日でもありました。

第1部は海の森公園でガイドツアーを実施。

ビジターセンターの展示を使って、海の森公園の成り立ちについておさらいをしてから、公園内の各エリアの特徴やプロジェクトが始まってから開園後の現在までの活動についての成果を案内しました。

第2部は、海の森水上競技場の艇庫棟食堂に場所を移して、懇親会を開催しました。清水理事長の挨拶では、団体の30年の軌跡を振り返り、目まぐるしく変化する社会の中で次の30年をどうしていくか、次の世代にタスキをつなげていただきたいとの言葉を頂きました。ご出席頂いた関係者約50名の皆様と共に、交流を深めるよい機会となりました。



TOPICS 2 海の森公園オープン1年

2025年3月28日にグランドオープンしてから、早1年が経ちました。日常の公園管理業務として巡回や園内の自然情報の記録に加え、「いきものみつけ」という、公園の昆虫やトカゲを採集・観察するイベントを実施。人気のイベントとなっています。指定管理者と協働の「海の森学校」の企画・運営を担い、除草体験や火起こしイベント等の自然体験イベントを行いました。ほか、日常的な生物調査だけでなく、水生昆虫調査を実施。ミズカマキリなど希少な水生昆虫を確認することもできました。また、引き続き定例的な海の森子供レンジャーや公園ボランティアの活動を推進しています。公園での催事では、公園ボランティア・海の森倶楽部会員との連携において重要な役割を担ってきました。今後も海の森公園の充実だけでなく、社会的な意義を深める場として育ててきます。



TOPICS 3 フィールドリーダー会議

2025年12月4日、「各フィールドの現状を共有し、横のつながりを深め、互いに学び合える関係を築くこと」を目的として、全国のフィールドで活動するフィールドリーダーと事務局スタッフが一堂に会し、「フィールドリーダー会議」を開催しました。コロナ禍以降、久しぶりとなる情報共有と交流の機会です。

フィールド関係者16名をはじめ、事務局スタッフを含む計26名が参加しました。

各フィールドから活動内容や地域ならではの特色、現場で直面している課題について報告が行われ、また、メンバーの高齢化や人手不足、新規参加者の定着、後継者の確保といった共通課題についても議論が交わされました。そして、

- 課題や気づきを一過性のものにせず、継続的に話し合っていくこと
- フィールド間、またフィールドと事務局との情報交換をより円滑に行う仕組みを検討すること

を、今後の方向性として共有しました。

会議終了後の懇親会では、現場ならではの苦労や工夫、日頃はなかなか話す機会のない裏話なども交えながら、和やかな雰囲気の中で交流が深まりました。

今回のフィールドリーダー会議は、改めて「聚（しゅう）＝つどい」としての価値を実感する機会となりました。今後もこのつながりを大切にしながら、各フィールドが互いに支え合い、活動をさらに発展させていけるよう、体制や仕組みづくりを進めていきます。



TOPICS 4 関西での継続的なCSR活動

関西では、交野森フィールドと奄山ふれあいの森フィールドで、合計3件の企業様CSR活動を行いました(竹や木の伐採、工作を実施)。このうちの2件は、コロナで休止していた活動を2024年度から再開して2年連続となる企業様と、5年連続の活動となる企業様です。

どちらの企業様も、参加者の半分ほどは毎回この活動に参加されている方々で、「この活動は、私の中で恒例行事になっているので、真っ先に予定に入れています」「伐採した竹を有効利用したいので、持って帰ります！」など、嬉しいコメントも。

当協会のテーマ「森を守る,人を育てる,森と人をつなぐ」が、企業様の継続的な活動を通して浸透しているという実感を得ることができました。



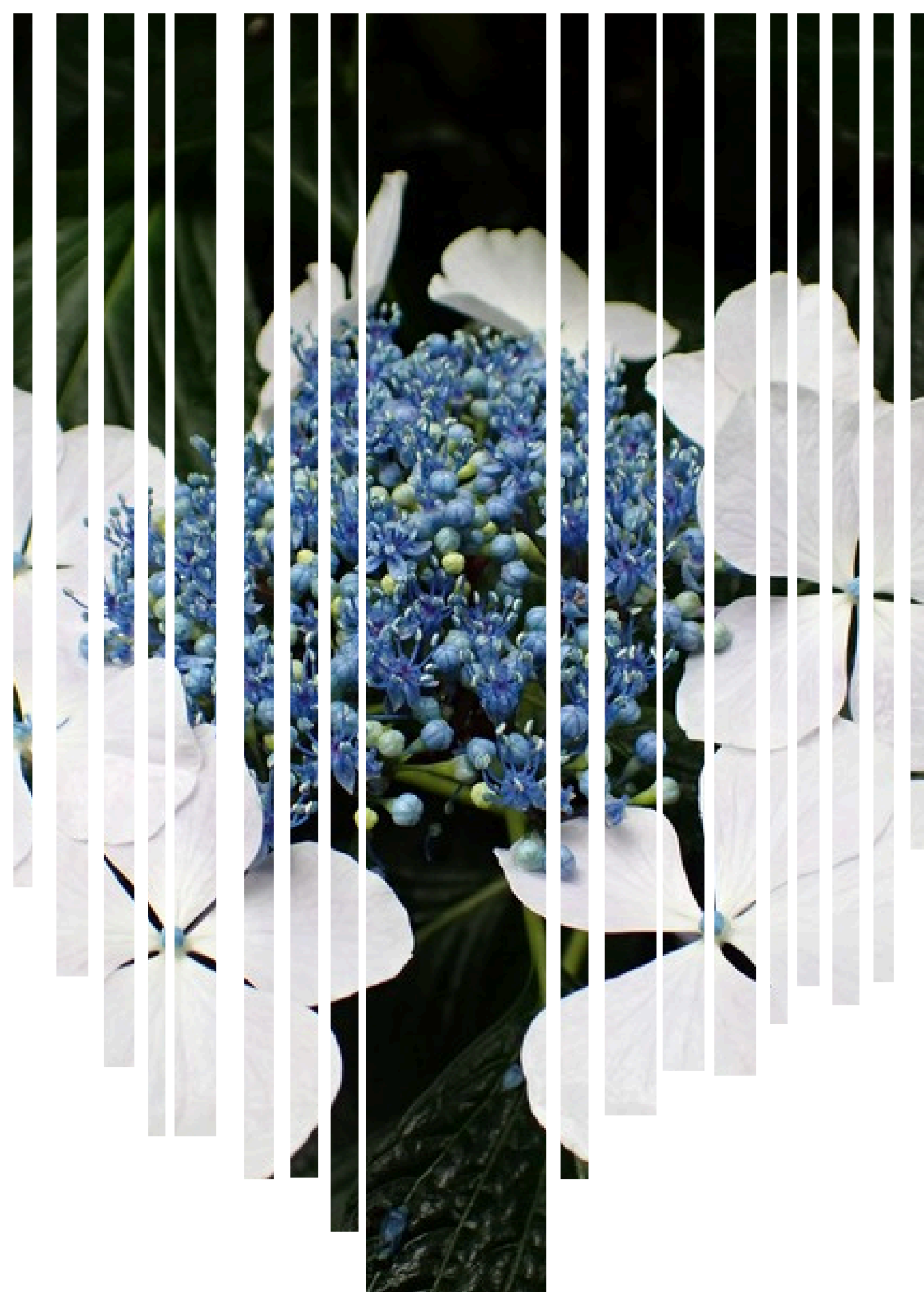
TOPICS 5 まちだみどり活用ネットワーク NPO法人化へ

まちだみどり活用ネットワーク（以下、「ネットワーク」）事務局業務を受託して3年目。ネットワークの本格的な自走化に向けた1年となりました。

会員管理やホームページ等の運営業務、実行委員会のサポート業務を推進し、ワークショップや養成講座などを事務局主催で実施。次のステップへの足掛けとなるような人材の発掘や取り組みにチャレンジしました。

ネットワークの臨時総会にて、NPO法人化を決議。理事等の構成メンバーを募り、新たなステージに向けて走り出しました。

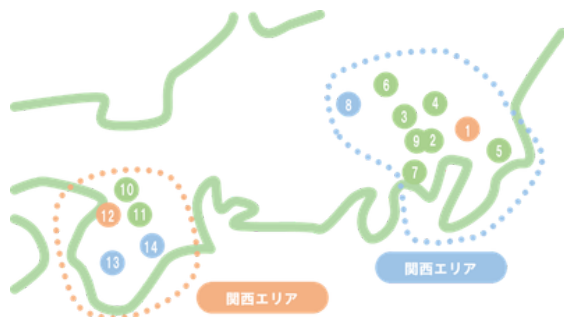
当協会は、今後もネットワークの会員として緑の活動を推進していきます。



フィールド事業



15箇所のフィールドにおいて、保全活動を推進してまいりました。



- 里山の保全・再生・活用
- 都市の緑を守り育てる
- 宿泊型ワーキング

関東エリア

- 町田・三輪里山フィールド
- 多摩動物公園雑木林 TAMAZO
- 武蔵野の森から学ぼう
- 千葉おぐらの森
- 嵐山ふれあいの森
- 二宮蜜柑倶楽部
- ハケ岳ワーキング
- 本町田宿ふるさとの森
- 嵐山TLCの森 ※協働の森
- 清泉女子大学の森 ※協働の森

関西エリア

- 交野森フィールド
- 奄山ふれあいの森
- レッツ久宝探検隊・自然学習ゾーン
- 和歌山ワーキング
- UNISOLの森 ※協働の森

各フィールド活動では、継続的な保全活動を推進することができました。それぞれのフィールドで特徴のある活動が展開され、さまざまな成果も見えてきています。

特にTNFD※に代表されるように社会的にも生物多様性の重要性が増してきており、森づくりへの関心はさらに高まってきています。

●ハケ岳ワーキング

古くなった木道の整備補修を進めつつ、雨池への新ルートづくりを行いました。今後も豊かな環境を残せるよう整備を進めています。

●里山林塾の開催

里山保全の人材育成プログラム「里山林塾」も10回を迎えました。林塾を修了したメンバーはTAMAZOをはじめ、さまざまな活動で活躍をしています。里山を活用し、里山を楽しみ、そして自然が豊かになるように活動を展開中です。

●生物調査

各フィールドで引き続きデータを蓄積して、整備活動による生物相の変化を見ていきます。例としてTAMAZOにおいては、昆虫調査の結果から得られたデータをもとに、長期・短期目標指標種の設定をし、モニタリングを行っています。町田・三輪フィールドでも昆虫調査を実施しています。おぐらの森や嵐山ふれあいの森ではキンラン・ギンラン等の調査を実施しました。

●インパクトデータ

それぞれのフィールドごとに、フィールド活動の効果をまとめて見える化しました。（詳しくはP20 インパクトデータをご覧ください。）

森づくり協働活動

生物多様性保全や気候変動対策、また、環境教育などを目的に、企業や団体と森づくりの活動を行いました。

- ・ TOPPAN(株)
- ・ スミセイ情報システム(株)
- ・ (株)SBI新生銀行
- ・ アストラセネガ
- ・ 東京ガスコミュニケーションズ 他

2025年度活動回数（15フィールド） 160 回

参加者 1830 人

※TNFD：TNFDとは、「Taskforce on Nature-related Financial Disclosures（自然関連財務情報開示タスクフォース）」と呼ばれ、企業活動における自然環境や生物多様性に関する情報を適切に開示する枠組み

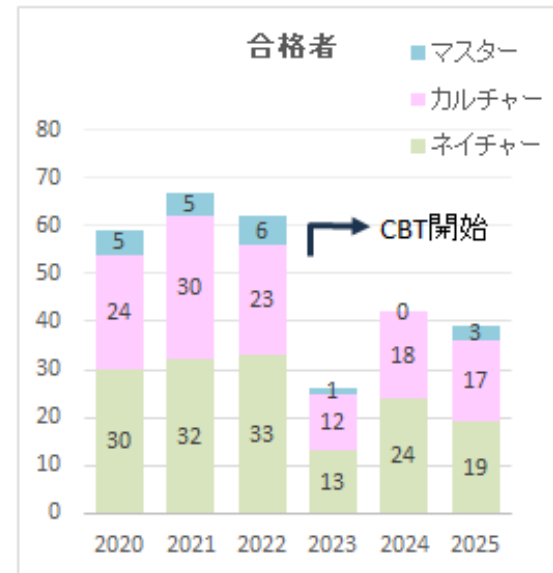
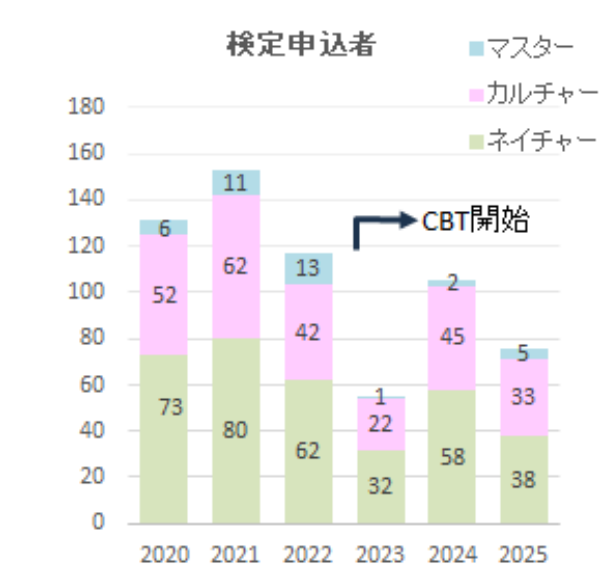
グリーンセイバー事業



グリーンセイバー資格検定～ 引き続きCBT方式で受験機会を拡大

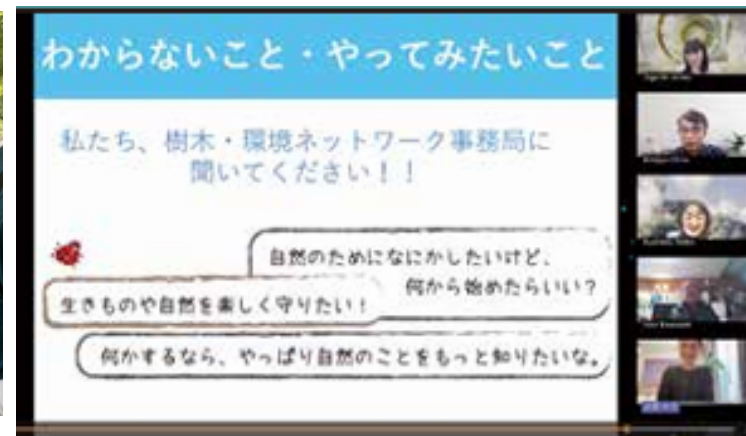
2023年度からのネイチャー・カルチャーのCBT方式の検定試験も3年目を迎えました。2024年に引き続き、受験期間を2週間に設定しました。2024年は申込者数、受験者数ともに増加しましたが、2025年は若干減少し、知名度アップと受験者数の増加への課題が残りました。マスター検定のほうは、2024年度は受験者がゼロでしたが、5名の受験者を迎えることができました。

広報についても、引き続き、パンフレットを各施設においていただくことや、Googleの検索システムで関心層に届きやすくなるような設定を工夫しました。



グリーンセイバーオリエンテーションの実施

検定に合格したけれど何から始めたらよいかわからない・グリーンセイバーについてもっと詳しく知りたいと疑問を持っている新規に検定に合格した方を対象に、団体の紹介と活動内容、グリーンセイバーの具体的な活動・森づくりボランティアへの参加などについて、詳しく説明する会をオンラインで行いました。説明の後には質疑応答を実施、参加者同士の交流も生まれました。



グリーンセイバー企画

グリーンセイバーによる企画イベントであるグリーンセイバー企画（GS企画）がグリーンセイバー（GS）のみなさんによって企画・実施されました。

- わかりやすい樹木の見分け方・伝え方（日比谷公園）
- GSハイキングクラブの活動（上野原能岳・金時山・筑波山・大楠山・仏果山）
- 三輪での昆虫調査
- 中野区立広町みらい公園でのイベント
ダンゴムシの秘密・ススキのミミズク・落ち葉でゲーム



環境 コミュニケーション事業



多様な団体・企業・行政のみならずと協働し、多くの活動を実施することができました。

【環境イベントの協働実施等】	13件	参加者 累計946名以上 ※不特定多数の参加するイベントはカウントしていない。
【森づくり関連】	11件	
【環境教育・自然体験イベント等】	10件	実施にあたり関わった関係者 累計 GS 42名 / 一般・外部講師等48名
【研修や授業の実施】	7件	
【所有緑地の管理・活用】	1件	
【オンライン研修等】	1件	
【環境ツールの制作、企画展示】	1件	

協働した環境教育の実施

- ・桜川中学校（117名 2回）
中学校の総合学習の時間で、里山とボランティアの体験を行う授業を行いました。事前授業の学校でのワークショップとTAMAZOフィールドでの森林保全作業です。TAMAZOでは保全作業だけでなく、グリーンセイバーが作成した動物の特徴についてを学べるクイズ形式のセルフガイドも行いました。
- ・アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社（講演当時：日興アセットマネジメント株式会社）
当会の活動を通して環境への理解を深めていただくことを目的として、講演を実施しました。国内外のグループ会社の従業員も含め、約90名の社員に参加していただきました。

・日本環境教育フォーラムとJAL財団が運営する「JALスカラシッププログラム」は、海外留学生が環境について体験を通じて学ぶ機会を提供しています。25年度は海の森公園での実施に際し、当会がコーディネートを行いました。

・活樹祭～親子森林教室
ローソンと協働したプログラム。母子家庭の親子を対象に森づくりや野外活動の体験を行いました。
海の森公園、千里中央公園
福岡鴻巣山緑地 計3回

企業の森づくり活動

- 企業の社会貢献活動として、企業の森づくり活動や体験活動をコーディネートしています。
- ・ローソン「ハピロー！の森 京都」
「ハピロー！の森」は、ローソンがネーミングライツを獲得した京都にあるキャンプ場です。25年度はローソン設立50周年を記念し、「ハピロー！の森」にて親子向けの森林体験イベントを開催。「ハピロー！の森」の管理者とともに体験活動を運営し、当会は、全体統括、森林整備体験のコーディネートを担当しました。



他団体との協働イベント

- ・森林と市民を結ぶ全国の集い
全国の森づくりボランティアの情報交流を兼ねたシンポジウムに、実行委員として参加し、分科会等の運営を行いました。全国から参加できるようにオンラインでの開催となりました。今回、「生物多様性」がテーマで、さまざまな角度からの話題提供がありました。
- ・環境教育関東ミーティング
毎年行っている環境教育関東ミーティングは、関東周辺の環境教育を実践している団体や個人の交流・情報交換の場です。実行委員として携わり、長瀬げんきプラザ（埼玉県）にて実施。当会としても分科会を担当しました。多くの環境教育関係者との交流の場となり、ネットワークがひろがりました。

・東京ガスコミュニケーションズ
東大和市と大田区にて、市民を対象とした木育セミナーを行いました。
日本の森、木の種類、身近な木製の製品など、木に関することをクイズ形式で学び、ヒノキの間伐材を使ってコースターづくりを行いました。

・TOPPAN 深谷工場
TOPPANホールディングス株式会社は、生物多様性保全への取り組みの一環で、自社工場の緑地の整備と活用を推進しています。深谷工場では、以前から森づくりを推進しており、25年度も社員・ご家族向けの体験活動を企画・運営しました。

学生インターンの受入れ

SOMPO環境財団、DotJPによる学生インターンの受入れを行っています。インターンのみなさんには、ブログをはじめ様々な活動に参加してもらいました。

自然共生サイトの登録支援

企業の工場緑地を自然共生サイトに登録するための支援を行いました。工場緑地では、これまで長年、生物調査を当協会で行ってまいりましたが、そのデータ蓄積をもとに資料作成を行い、今後のモニタリング計画の策定も行いました。



アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社 講演会



海の森公園でのローソン活樹祭



ユニソルの森づくり



TAMAZO 新生銀行の活動

行政との 協働・委託事業

取
組
森と人を繋ぐ

海の森公園【東京都・海の森公園パートナーズ】

●海の森公園ボランティア

25年度も引き続き海の森公園ボランティアのコーディネート事業を受託しました。海の森公園は当会で長年関わってきた森づくりの場です。25年3月末にオープンした海の森公園で、登録更新したボランティア（43名）が、樹林地の整備（駐車場北側エリアの枝打ちやクスなどの除草、どんぐりの路の苗木の育樹）、園内ガイドツアーや各種イベントの機会に来園者に対して海の森の魅力を伝える活動をおこないました。

●海の森子供レンジャー

1年間の研修を終えて正式に子供レンジャーとなった80名がオープンした海の森公園で様々な活動をおこないました。メインとなったピオトープの作成では、何もなかった場所に一から水場やエコスタック、インセクトホテル、落ち葉ため、石積み等を作成して生物多様性の発展につなげようと工夫を試みています。早速、東京都の絶滅危惧種にあたる生物の確認も出来、引き続き在来種や絶滅危惧種などの生息地になるよう努めています。また、園内美化にも努め花壇の整備や除草。内外のイベントではガイド活動や生きものの解説など積極的なPR活動もおこないました。

●海の森公園管理業務

海の森公園指定管理者とともに、公園の日常業務を担ってきました。巡回、自然情報収集、ビジターセンターでの展示、イベント実施等を行い、公園管理とボランティア・子供レンジャーとの連携もしています。オープンから1年、各所からの視察依頼にも対応をしてきました。公園としての魅力向上に努めながら、東京の“新しい森”を都と指定管理者と一体となって進めてまいります。

まちだみどり活用ネットワーク【町田市】

町田市内の里山、農地、公園などで活動する各団体や個人をつなげることで、それぞれが抱える課題解決につなげたり、豊かなみどりを活かすことで、町田市の魅力向上と周辺地域の活性化することを目指し、23年度に設立。このバックオフィスとなる事務局業務を担っています。25年度も引き続き各イベントやワークショップ等の実施を支援したほか、26年度に迎える自走化に向けて、助成金申請や次期体制づくりを各方面からサポート。また、さまざまな町田市の中間支援団体を結ぶプラットフォームとして初の交流会を実施し、新たな課題の共有化を図りました。

主な活動（イベント）

- ・ずしまちいち（函師日影坂下公園 10月）
- ・春・秋の里山体験ファミリーワークショップ（大谷里山農園 4月・10月）
- ・みどりのコーディネーター養成講座（2月・3月）
- ・植物図鑑づくりワークショップ（8月・10月・12月）
- ・まちだネットワーク団体交流会（3月）



広報・運営

広報
運営

30周年記念イベントを開催

創立30周年を迎えるにあたり、2025年9月20日（土）に海の森にて「30周年記念イベント」を開催しました。

第1部は海の森プロジェクトの成果をご披露する場として、海の森公園のガイドツアーを開催し、公園内の各エリアの特徴や海の森ボランティアや子供レンジャーの活動について解説をしながら園内を散策しました。

第1部は海の森水上競技場食堂へ場所を移し、懇親会を開催しました。約50名の参加者の皆さんとともに30年間の軌跡を振り返り、更なる交流を深める貴重な時間を過ごすことが出来ました。

記念グッズとしてシールを作成 ▶



聚レターでも30周年を特集

30周年イヤーに発行した171号から173号まで、3号にわたって30周年特集を掲載。30年の振り返りや関係者からのメッセージ、スタッフ同様の思いなどを掲載し、173号では30周年記念イベントの様子を報告しました。30周年だけでなく、海の森公園、まちだみどり活用ネットワーク、ユニソルの森、グリーンセイバーのサポートなどの活動報告にも力を入れ、さらに幅が広がった事業、活動の成果を共有。26年3月に発行した174号では、長年樹木・環境ネットワーク協会の活動に携わってきた久保重明さんのロングインタビューを掲載し、30周年イヤーを締めくくりました。

ホームページのユーザビリティを向上

昨年度はこれまでに無かったページを新設し、より団体の取り組みに理解を深めて頂くと共に、アクセスしやすいページ作りを心掛けました。

グリーンセイバーについてのページや、企業からの問い合わせに対応したCSR活動に関するご案内のページ、ボランティア等の応募やお問い合わせに対応したページを新たに作成しました。

今後もユーザビリティを高められるよう、順次マイナーチェンジを図ってまいります。



SNSの活用と広告出稿

SNSへの運用としては、25年度は引き続きブログやX、Facebookをはじめ、幅広い年代の方をターゲットとしたInstagramの運用を積極的に実施。各フィールドの活動やイベント等の活動状況についてタイムリーに、より広く多くの方に伝える手段として役立っています。

また、グリーンセイバー検定の受検申し込み時期に合わせた広告に関しても、Googleのほか、Instagramへの出稿を行い、若年層の受検者の増加にも役立てることができました。26年度も引き続き各SNSを利用したプロモーションを図って行く予定です。



会員、グリーンセイバーとのコミュニケーションを活性化

コロナ禍をきっかけにスタートしたオンライン交流会「パートナーズ・ボイス・プロジェクト」は一旦終了とさせていただきますが、25年度も会員、グリーンセイバーとコミュニケーションを図る機会を積極的に設けました。

スタッフが増えたことで各フィールドに担当スタッフを配置し、定例活動に参加する機会を増やしたこともそのひとつ。活動しながら気軽に声を掛けられる機会が増えたことで、現場の課題やニーズを共有しやすくなったと感じています。

また、12月にはフィールドリーダー会議、グリーンセイバーオリエンテーションを実施。対面とオンラインを併用することで、関東近県以外からも参加していただき、ふだん交流する機会のない他のフィールドのメンバーと意見交換したり、新グリーンセイバーが先輩に気軽にアドバイスを求めたりするシーンが見られました。今後もこのような場をさまざまなかたちで設定したいと考えています。



インパクトデータ

当協会の保全活動や体験活動について、社会的にどのようなインパクトがあるか、既存の指針等をつかって概算・数値化してみました。

フィールド活動による炭素吸収量

当協会が管理している全国のフィールドにおいて、実際に整備を行っているエリアの年間の炭素吸収量を概略試算したものです。

113トン-CO2/年

【炭素固定量算出方法】

年間森林吸収量(t-CO2/年) = 整備面積 (ha) × 基準吸収量(t-CO2/ha/年) × 成長補正係数

植栽吸収量 (t-CO2/年) = 植栽本数 × 植栽1本あたり吸収量(t-CO2/年)

総CO2吸収量(t-CO2/年) = 年間森林吸収量 + 植栽吸収量

林野庁算定指針、Japanese forests carbon studies

各フィールドの整備エリアの面積と植樹本数から総吸収量を概算で算出したものが右表です。

フィールド名	実際に整備している面積(ha)	年間森林吸収量(t-CO2/年)	植樹本数	植栽吸収量(t-CO2/年)	総CO2吸収量(t-CO2/年)
町田・三輪里山	8.1	48.6	40	0.2	48.8
TAMAZO(昆虫の森)	1	6	0	0	6
TAMAZO(ライオンの森)	1.5	9	9	0.045	9.045
武蔵野の森	1	6	0	0	6
千葉おぐらの森	1	6	5	0.025	6.025
嵐山ふれあいの森	3	18	0	0	18
二宮フィールド	0.4	2.4	3	0.015	2.415
交野森フィールド	0.45	2.7	1	0.005	2.705
庵山ふれあいの森	0.1	0.6	3	0.015	0.615
本町田宿ふるさとの森	1.9	11.4	0	0	11.4
レッツ久宝探検隊	0.2	1.2	0	0	1.2
和歌山ワーキング	0.1	0.6	0	0	0.6
合計					112.805

【基本条件】

全フィールドにおいて、整備しているエリア
落葉広葉樹二次林
主林齢：15～30年
通常の里山整備として算出

体験活動参加者の行動変容による炭素吸収量

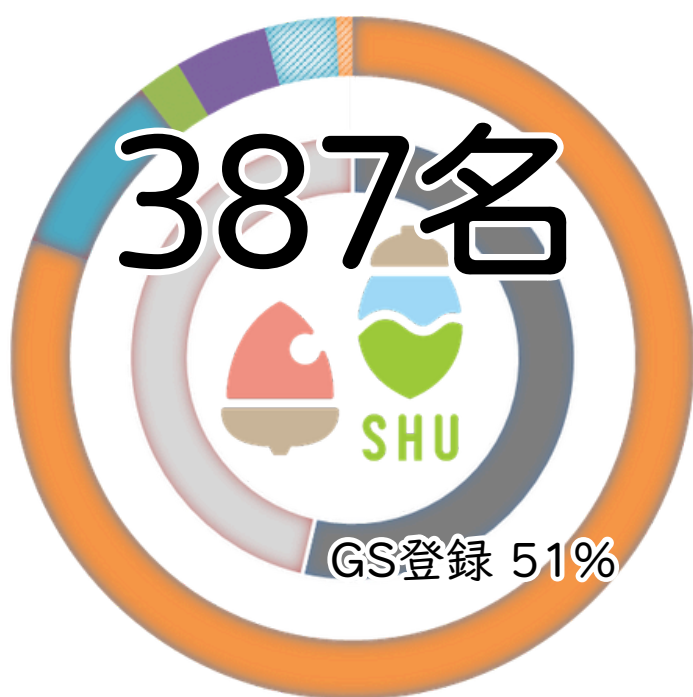
当協会がかかわる環境活動及びイベント（参加者4,785名）における環境教育効果として、行動変容率（環境省調査）、家庭部門1人当たりCO₂排出量（環境省調査）、行動変容によるCO₂削減率（環境省ナッジ実証）を用いて試算しました。

削減量 = 参加者数 × 行動変容率 × 1人当たりCO₂排出量 × 行動変容によるCO₂削減率





125トン-CO2/年

【基本条件】



- ・ 行動変容率：26% 環境省アンケート調査（2020）
- ・ 1人当たり家庭CO₂排出量：1.97t-CO₂/年 環境省家庭部門CO₂排出実態調査（2023）
- ・ 行動変容によるCO₂削減率：5.1% 環境省ナッジ実証（約1万人）（2017～2020）
- ・ 参加者数：4785人（別途算出）



正会員（計371名・団体）

	個人会員	312名
	家族会員	34名
	団体会員	8団体
	法人会員	17社

準会員（計16名）

	賛助会員	13名
	ユース会員	3名

入会13名 退会13名

法人会員

株式会社アテナ

NEC ネットエスアイ株式会社

株式会社KSK

株式会社SBI新生銀行

株式会社昭栄

大和不動産鑑定株式会社

株式会社高橋総本店

東京シティライオンズクラブ

TOPPANホールディングス株式会社

株式会社ナカムラ・コーポレーション

ノーススタンダード・リミテッド

株式会社美交工業

株式会社ひむか造園土木

ベーカー&マッケンジー法律事務所

（外国法共同事業）

Silky 株式会社ユーエム工業

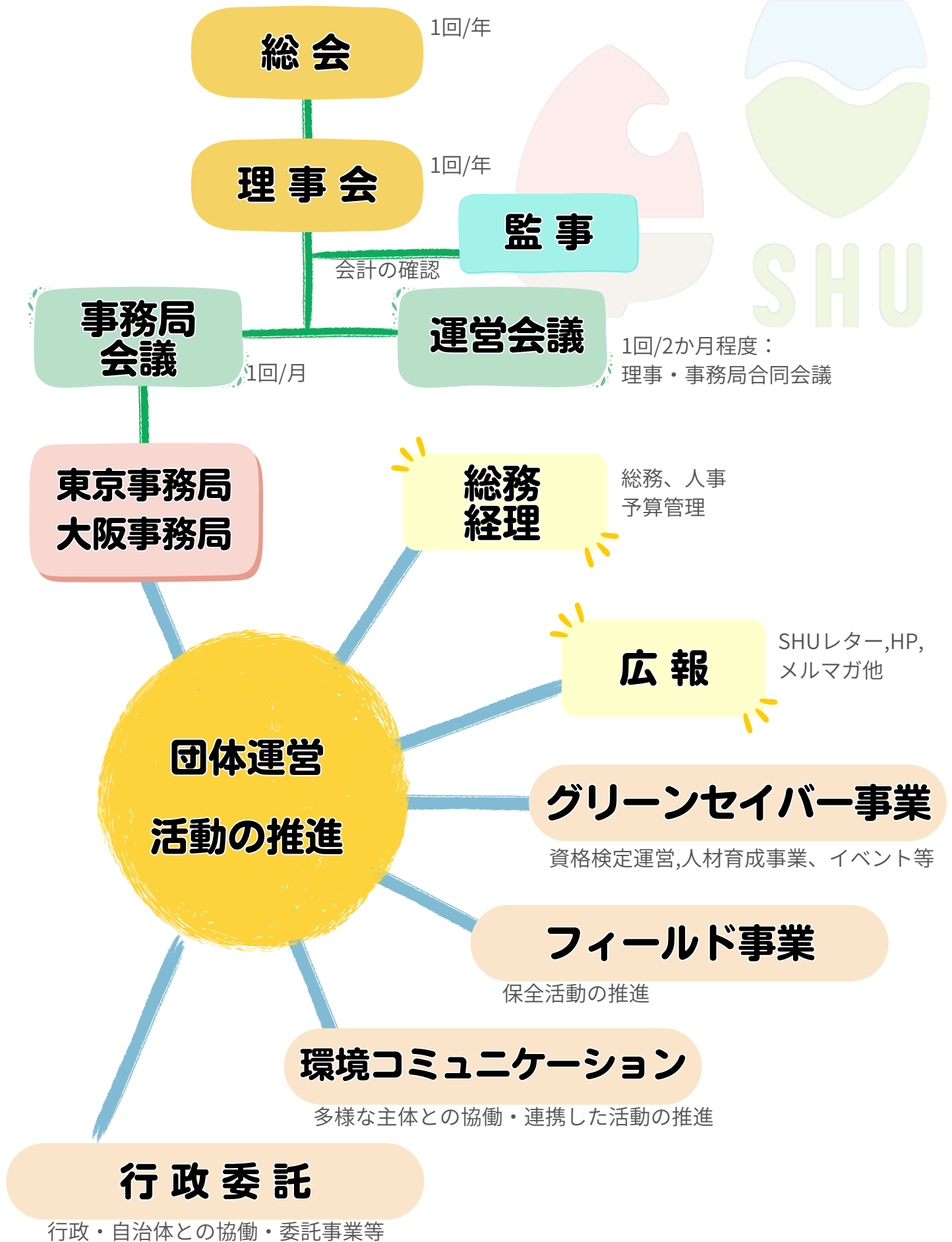
株式会社ローソン

【顧問】 澁澤 寿一	前理事長
【理事長】 清水 善和	駒澤大学総合教育研究部元教授
【専務理事】 佐藤（中西） 由美子	グリーンセイバー・マスター
【理事】 小久保 広宣	関西聚スタッフ
【理事】 柳沼 勉	株式会社アテナ 執行役員管理部長
【理事】 岡本 俊彦	グリーンセイバー・マスター
【理事】 片山 雅男	神戸教育短期大学児童教育学科元教授
【理事】 川端 白人	グリーンセイバー・マスター
【理事】 小林 健人	NPOフュージョン長池 理事
【理事】 後藤 洋一	事務局長
【理事】 塚本 秀貴	グリーンセイバー・マスター
【理事】 広瀬 攻	三輪里山フィールドリーダー
【理事】 松浦 晃	株式会社 つくば林業
【監事】 三尾 隆志	公認会計士
【監事】 吉田 寛	公認会計士 公会計研究所 代表

【事務局スタッフ】

専務理事	中西 由美子
理事・事務局長	後藤 洋一
スタッフ（東京）	石崎 庸子
スタッフ（東京）	中西 規章
スタッフ（東京）	大西 智野子
スタッフ（東京）	小口 純子
スタッフ（東京）	松尾 茉里子
スタッフ（東京）	千野 公弥
スタッフ（東京）	鹿嶋 晶子
スタッフ（東京）	天野 達郎
スタッフ（東京）	田島 泰子
スタッフ（東京）	赤木 君禎
スタッフ（東京）	澤野 海星
スタッフ（大阪）	山本 睦子
スタッフ（関西）	小久保 広宣





収支・成果報告

※この成果報告書は、吉田寛氏の「公会計における財務諸表利用者としての納税者」
(国府台経済研究第13巻第1号)に掲載された表示形式を利用しています。

発生費用の部:

活動に掛かった費)

項目	2024年度	2025年度
事業費	36,677,825	47,141,265
総務・管理	5,668,105	7,021,292
広報	3,434,010	3,525,312
グリーンセーバー事業	1,967,494	1,857,501
フィールド事業	3,700,825	3,897,375
環境コミュニケーション事業	8,518,807	3,578,074
行政委託事業	13,388,584	27,261,711
税金	150,000	150,000
法人税・住民税・事業税	150,000	150,000
棚卸高		
期首商品棚卸高		
期末商品棚卸高		
発生費用合計	36,827,825	47,291,265

費用負担の部:

その費用は以下のように負担しました

項目	2024年度	2025年度
受取会費	2,537,000	2,402,000
受取寄付金	3,046,868	3,508,402
受取助成金	250,000	100,000
事業収入		
グリーンセーバー事業	1,563,809	1,525,407
フィールド事業	5,229,879	4,240,523
環境コミュニケーション事業	13,597,690	5,697,629
行政委託事業	18,665,000	24,708,756
小計	39,056,378	36,172,315
事業外収入		
雑収益・受取利息等	3,169	135,476
費用負担額合計	44,893,415	42,318,193
当期正味財産増減額	8,065,590	-4,973,072

貸借対照表

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
I 流動資産		I 流動負債	
現金	145,262	未払金	3,446,728
普通預金	4,400,353	前受金	1,548,998
郵便振替口座	2,717,722	預り金	78,209
未収金	19,368,896	仮受金	274,887
前払費用	162,800	流動負債合計	5,348,822
流動資産合計	26,795,033	2 固定負債	0
2 固定資産		負債の部の合計	5,348,822
有形固定資産		III 正味財産の部	
車両・運搬具	453,600	前期繰越正味財産	26,848,484
減価償却累計額	-453,599	当期正味財産増減額	-4,973,072
有形固定資産合計	1	正味財産の部合計	21,875,412
無形固定資産			
商標権	74,000		
敷金	355,200		
無形固定資産合計	429,200		
固定資産合計	429,201		
資産の部合計	27,224,234	負債・正味財産の部合計	27,224,234

SDGsの達成に向け、気候変動対策や生物多様性保全是ますます重要になっています。社会的な関心も大きくなってきています。活動が継続的かつ円滑に進むよう、ご寄付は大切に活用させていただきます。

ご支援いただきました皆様に深く御礼申し上げます。

2025年度の寄付および助成金等の実績は以下のとおり

●寄付

個人の寄付	32件	724,000円
-------	-----	----------

法人・団体の寄付	6件	1,357,956円
----------	----	------------

- ・ KDDI(株) ・ (株) ジャックス ・ 住友ゴム工業 (株)
- ・ ベーカー&マッケンジー (株) ・ YAAAS RUN
- ・ (株) USEN FinTech ・ ジャンボインターナショナル (株)

寄付プログラム	4件	1,426,446円
---------	----	------------

- ・ KDDI「キボウのカケハシ」
- ・ ボードレスジャパン「ハチドリ電力」
- ・ SoftBank「つながる募金」
- ・ OSUSO (オスソ)

合計	3,508,402円
-----------	-------------------

●助成金

- ・ 埼玉県寄居林業事務所 (嵐山フィールド)

1件	合計100,000円
----	------------

個人情報保護の観点から個人名の記載は控えております。あらかじめご了承ください。

監査報告書

特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会の
2025年度決算について監査の結果、事業報告は事業の内容
を適切に反映していると認めます。

2026年5月15日

特定非営利活動法人

樹木・環境ネットワーク協会

監事 三尾隆志

三尾隆志

監事 吉田寛

吉田寛





団体概要

【組織】

団体正式名称 特定非営利活動法人樹木・環境ネットワーク協会
設立 1995年9月19日
ホームページ <https://www.shu.or.jp/>



○東京事務局

[住所] 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-6
日本分譲住宅会館ビル8階南
[Tel] 03-5244-5447 [Fax] 03-5244-5448
[Mail] info@shu.or.jp

○大阪事務局

[住所] 〒576-0033 大阪府交野市私市5丁目17番11号
[Tel] 072-893-1716 [Fax] 072-892-3247
[Mail] kansai.syu1@nifty.com
[HP] <http://kansaisyu.o.oo7.jp/index.html>